

自主防災連絡協議会ニュース

平成 24 年 6 月 創刊号

創刊にあたって 高岡市長 高橋 正樹

平成 7 年 1 月の阪神淡路大震災において自主防災組織の必要性が高まり、平成 16 年 10 月中越地震や新潟・福島豪雨、平成 19 年 3 月能登半島地震では高齢者や障害者の避難支援などを含めその重要性が再確認されました。そして、昨年発生し、未曾有の災害となった東日本大震災においても、避難所運営や復興段階における地域コミュニティの大切さが改めて認識されています。



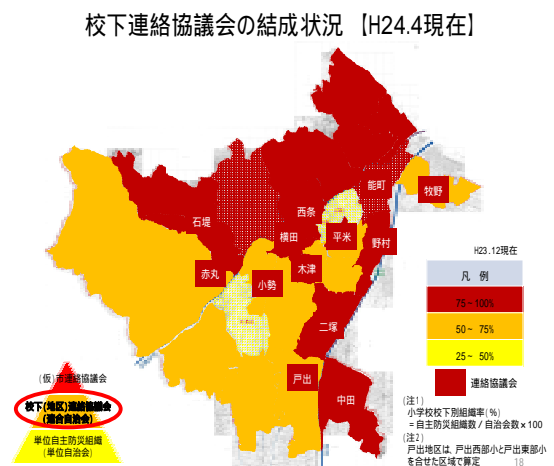
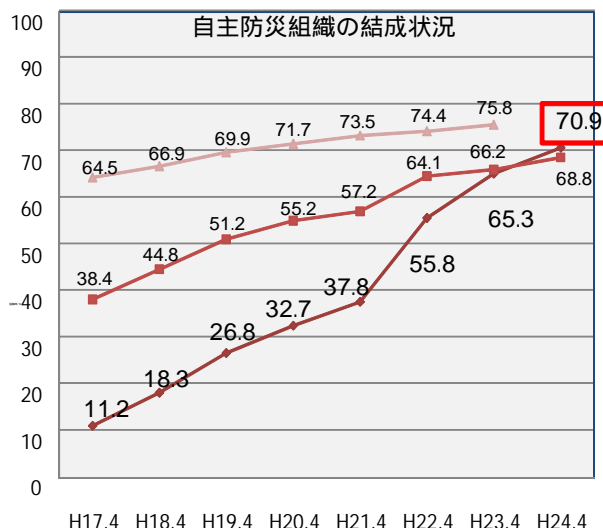
これらの災害の教訓も踏まえ、平成 17 年 11 月の合併時に 10% 台であった本市の自主防災組織率は、本年 4 月には 70% 超（458 組織）となりました。組織率の向上は、ひとえに自治会や市民の皆様の努力の賜物と感じています。しかし、一方では、「自治会員が高齢化し組織が作りにくい」「活動がマンネリ化している」などの課題も多くお聞きしております。

本市では、こうしたことを踏まえ、自主防災組織に対し各種支援策を実施するとともに自主防災組織間の連携による防災力の向上を図るため、校下（地区）単位の連絡協議会の結成を促進しており、その一環として、この度、自主防災連絡協議会ニュースを創刊することといたしました。このニュースは、年 4 回発行し、時事情報（TOPICS）や先進事例、研修会の開催情報などをお知らせしてまいります。

災害は、自主防災組織や市民の皆様の協力なしには乗り越えることができません。今後とも、安心・安全のまちづくりを目指し、皆さんと一緒に取り組んでまいりたいと存じます。

自主防災組織の現況

本市では、全国平均や富山県平均と比べると結成率が低い状況にありましたが、徐々に組織化が進み、6 月 1 日現在で 73.0% となっています。校下（地区）連絡協議会も 36 連合自治会の 3 分の 1 に当たる 13 団体で結成されています。



1 | 福祉避難所を指定しました！

本市では、東日本大震災等の状況を踏まえ、避難所における災害時要援護者の安心・安全を確保するため「高岡市福祉避難所設置・運営マニュアル」を策定し、3月28日に29箇所（特別養護老人ホーム12か所、老人保健施設7か所及び障害者福祉施設等10か所）の福祉避難所を指定しました。協定締結式の際には、富山福祉短期大学の鷹西教授より、「互酬性（お互いさま）」という言葉キーワードに、お話をいただきました。その中では、地震災害の歴史を振り返り、現代社会においてどのように意識啓発や地域ぐるみの災害対策に取り組むべきか、また当事者や家族にとっての復興支援についてどう取り組むべきかを考えさせられました。



福祉避難所とは：高齢者、障害者、妊産婦、乳幼児及び病弱者などのうち、一般の避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする「災害時要援護者」が支障なく避難生活を送ることができるように開設します。福祉避難所は、災害時に一般の避難所での避難者の状況を判断した上で開設される「二次的避難所」であり、原則として、最初から避難所として利用することはできません。

2 | 津波シミュレーション結果を発表！



県では、富山県に影響を及ぼすおそれのある津波についてシミュレーション調査を実施し、「津波高」、「津波の到達時間」、「津波による人的被害」等の予測結果を3月30日に発表しました。東日本大震災のような太平洋側の海溝型地震と比べると津波の高さや継続時間は短い結果となっていますが、反面、津波到達時間が非常に短いといった課題も分かりました。この結果は県ホームページ

(http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1004/kj00011669.html)で閲覧できます。本市では、この結果を基に津波ハザードマップの作成や海拔表示板の設置などを予定しています。

3 | 四季防災館がオープン！

体験型学習施設「四季防災館」（富山県広域消防防災センター内）が4月1日、富山市惣在寺（県総合運動公園南側）にオープンしました。自主防災組織の研修等にご活用ください。

電話：076-429-9916、開館時間：午前9時～午後5時、入館料：無料
休館日：月曜日、休日（祝祭日）の翌日、12月29日～1月3日



先進事例を紹介します！

「防災倉庫を置く場所がない」、「自治会員が少なく防災訓練ができない」、「高齢化が進み役員のなり手がいない」など様々な課題に対し、自主的で創造的な様々な取り組みがなされています。最近では、連絡協議会単位のわがまち訓練などの活動も活発になってきました。本市では、この様な先進的な活動事例を市ホームページや出前講座などで紹介しています。その一例を紹介します。

写真：小学校や民間企業と連携し、避難所運営訓練を実施した事例です。図上訓練で学校の使用方法を検討した後、実際に避難所を設営・運営し、多くの課題が見つかりました。

写真：校下連絡協議会の「わがまち訓練」で避難所運営委員会やクロスロードゲームなどを実施した事例です。老若男女が参加できる楽しいゲームを通じ、日頃の防災対策の大切さをみんなで学びました。

写真：停電になった時でも使用できるよう、電動ポンプ式の既設井戸に手動ポンプを併設された事例です。地元企業と飲料水や一時避難場所についての協定も締結されました。



(写真) 古府校下自治連合会



(写真) 二塚校下自主防災連絡協議会



(写真) 中田南町自主防災会

平成24年度事業を紹介します！

補助事業

- ・ 資機材補助：補助率75%(上限額は世帯数に応じ設定) 24年度が最終年度です！
- ・ 防災訓練：1回5千円(年2回まで) 連絡協議会で実施する場合は、一括で申請ができます！
この外、県では、「連絡協議会・学校・福祉団体などによる連携(防災キャンプなど)」、「津波対策用の資機材整備」、「地震・津波対策訓練」、「防災士養成」に対する補助事業が予算化されています。本市ではこれらの事業が具体化すれば、連協ニュースなどでお知らせします。

出前講座(連絡協議会向け)

- ・ 連絡協議会の活動：平常時や災害時の活動内容やわがまち訓練などを説明します。
- ・ 富山県の地震(呉羽山断層帯)：県内の断層帯の状況や地震対策を説明します。

研修

- ・ 組織化研修：組織化にむけた研修です。図上訓練などを実施します。
- ・ リーダー研修：リーダーの育成を目的にした研修です。

訓練

- ・ 水防訓練：6月2日(土)8:30~9:30、庄川右岸中田橋付近(葦附地先)で実施
- ・ 原子力災害対策訓練：6月9日(土)9:30~11:00、国吉小学校で実施
- ・ 総合防災訓練：8月26日(日)9:00~11:00、博労・木津・南条・石堤・西広谷小校下

東日本大震災被災地支援について

東日本大震災の際の支援に対し、宮城県知事より感謝状が届きました。この感謝状は、高岡市民の皆様からいただいた沢山の救援物資や様々なボランティアに対する感謝の気持ちとして送られたものです。このような感謝の気持ちは、宮城県だけでなく、被災地の自治体、企業及び個人からもいただいております。

その中には、被災直後から復興へ歩む道のりを綴った写真集やDVDなどもありました。



本市では、これらの書籍等や市民のみなさんのボランティア活動写真などを福岡防災センターで展示しています。お近くへお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。

自主防災相談室(本庁舎7階)

「自主防災組織を組織したい」、「どんな活動をすればよいの?」、「どんな訓練をしたいの?」というお悩みに自主防災アドバイザーが個別にお答えします。また、地域の皆さんに自主防災組織の必要性、結成方法をわかりやすく説明する出前講座も行っています。



自主防災アドバイザーの浦島さん(左)と土合さん
 場所：高岡市役所7階
 電話：20-1355 FAX：20-1325
 時間：平日の午前9時～午後4時

自主防災応援室(福岡防災センター)

訓練の実施方法や資機材の活用方法について、「パネル展示」「DVD視聴」「資機材の展示・使用体験」などのコーナーを設けています。防災資機材の貸出も行っています。



場所：〒939-0192 福岡町土屋 20 番地
 電話：64-0770 FAX：64-0771
 時間：午前10時～午後6時
 休館日：月曜日、休日(祝祭日)の翌日、12/29～1/3

自主防災連絡協議会ニュース編集部：高岡市総務部総務課危機管理室

電話 | 20-1229 FAX | 20-1325

<http://www.city.takaoka.toyama.jp/somu/0301/kikikanri/kikikanri.html>

防災情報は
 はこちら！